

永代経法要修行

～3年ぶりに制限のない法要～



第61号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949

6月25日、3年ぶりに「新型コロナウイルス感染症」による制限のない、永代経法要が修行された。

5月8日から「第5類感染症」になり緩和されていたが、5月28日の「宗祖降誕会」は、若干の制限を残して修行。このたびは、全ての制限を無くしての法要となった。

当日は、54名の参拝があり、コロナ禍から比べると少しではあるが日常の生活に戻りつつあることが感じられた。

午後2時、喚鐘の音が本堂に鳴り響き、輪番含む別院僧侶6名が内陣に入堂し法要が始まった。

最初に、納骨所利用者を対象に昨年度から始めた「三季のおつとめ」(後述)へ申し込みされた方の「法名」をご本尊・阿弥陀如来さまの尊前へ奉呈した。

お勤めは、親鸞聖人が、「真実の教」「浄土真宗」と述べられた『仏説無量寿経』を用いた『無量寿経作法』が行われた。出勤僧侶は、マスクを取ったお勤めとなったため清々しい表情での読経であった。

勤行後、兵庫県から佐々木大観師を迎えての法話。

先生は、浄土真宗の教えを簡単に説明するために、自らが作られた文章を参拝者に配布して法話をされた。参拝者からは「大変ありがたいものをいただいた」との感想が聞かれた。

配布された文章の内容は、次の通り。

「浄土真宗の教えは

阿弥陀様という仏様が

ナンマンダブツという仏様が
かならず

私を

極楽の浄土に連れて参って
仏様にして下さる教えです

釋大観

さんき
三季のおつとめ・
法名奉呈とは？

別院の納骨所を利用されている方は、県内をはじめ全国各地におられ、また、コロナ禍でもあったことから、三季(春季彼岸・お盆・秋季彼岸)におけるお参りができない方のために納骨所前にて、当院僧侶が読経することを始めた。三季のおつとめに追加して「法名奉呈」を申し込みされた方の法名を「永代経法要」の際に奉呈することになっている。



尊前に法名を奉呈

別院で宗祖降誕会

宗祖親鸞聖人のご誕生を祝う法要、「宗祖降誕会」が、5月28日、午後2時から勤められた。5月8日から「第5類感染症」となり制限が緩和されていたが、出勤僧侶においてはマスクを着用するなど一部の制限を残しての修行となった。また、コロナ禍前には、抹茶のお接待を行っていたが、このたびも見送ることとなった。

法要の最初に、雅楽の奏楽中、伝供（てんぐ）が行われた。伝供とは、華（け）・灯（とう）・供物（くもつ）などを順次に手渡して尊前に献供することである。別院仏教壮年会代表者並びに兵庫教区仏教青年連盟代表が外陣を進み、内陣の僧侶に手渡し、宗祖の御影（ごえい）前に供えられた。お勤めは、親鸞聖人が著した「正信偈」を用いた『正信念仏偈作法第二種』が勤められた。

この度のご法話のご縁は、宍粟市の安楽寺住職、黒田真隆師。親鸞聖人のみ教えが、やさしい言葉でお取次ぎされた。

暁天講座～お寺での朝活～

8月1日から3日までの3日間、午前7時から暁天講座が行われた。

1日は、尾野智行師（たつの市）、

2日は、別所法宣師（神戸市）、3日は、天野真隆師（たつの市）の3名を迎えてのご縁となった。

参拝者の中には、毎年、講座に参拝されている方が多く、夏の恒例行事となっているようだ。早朝からの出勤め、ご法話を聴聞、朝粥をいただき清々しい1日を迎えた様子であった。

朝粥接待・暁天講座にて 別院仏教婦人会

暁天講座期間中、別院仏教婦人会では、講座後の朝粥接待を行った。

毎年、暁天講座後の朝粥接待を行っていたが、コロナ禍で中止となり3年ぶりの再開。しばらく休止していたため、お茶碗やお皿などの食器類の確認や献立作りと事前準備に追われながら当日を迎えた。

朝7時に集合し、お粥を炊く人、配膳する人に分かれて手際の良い動きで午前8時過ぎのお接待前までには完了していた。

例年の献立は、お粥・漬物・温泉玉子であったが、今年は、温泉玉子を玉子豆腐に代え、さらに一品を追加した内容。1日は、酢の物、2日は、高野豆腐の玉子とじ、3日は、切り干し大根が提供された。

お接待にあたった婦人会のみなさんは、3日間の大役を終えて安堵した様子であった。



朝粥をいただく参拝者

お寺でサマースクール モダン寺土曜子ども会

8月1日から2日までの1泊2日の日程で、夏の恒例行事、「サマースクール」を開催。幼児から小学生までの13名が参加した。午後2時、本堂でのおつとめ「らいはいのうた」から始まった。1日目は、午後9時からの就寝勤務（キャンドルナイト）に向けたキャンドルづくり、夕食のカレーライスの買い出しと準備、花火、別院近隣銭湯での入浴、就寝勤務といった内容で行われた。

2日目は、午前7時からのお晨朝から始まり、朝食（婦人会提供の朝粥）、砂絵づくり、昼食（ハンバーガー）買い



楽しい水遊び



砂絵づくり

出しと準備、水遊び、そして、閉会式といった日程。
砂絵づくりでは、神戸市内で、こども教室を開いているアトリエ・ペタタの石橋幸子先生を迎えて行われた。この度は、フォトフレームの周りに、好きな模様を描き、そこに色の付いた砂を落とし貼り付けて作成した。色とりどりの作品が出来上がり、子どもたちは、「夏休みの宿題がひとつできた」と喜んでいた。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要 ～別院から京都・本願寺へ団体参拝～

京都・本願寺にて修行された「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」へ、4月10日、本願寺神戸別院から23名が参拝した。

当日は、10時からの法要に参拝するため、7時30分に大型バスに乗って別院を出発し、予定通り本願寺に到着した。全国各地からの参拝があるため、法要開始時刻の10時にはほぼ満堂。室内は、法要のため全て椅子席になっており1時間弱の法要も無理なく参拝できたようだ。

この度の法要では、『新制御本典作法』（しんせいごほんでんさほう）が制定されている。「御本典」とは、親鸞聖人が著述した『顕浄土真実教行証文類』であり、浄土真宗の根本聖典である。お勤めの御文は、すべてこの「御本典」から選定され、また、唱え方においては、伝統的な声明（しょうみょう）と大衆唱和の両面を兼ね備えており、より唱和しやすいようになっている。

法要は、記念布教から始まり、『新制御本典作法』を僧俗一体となつてのお勤め。そして、ご門主さまからご親教をいただき、新しい領解文（浄土真宗のみ教え）を唱和して終わりとなった。

法要後は、国宝の書院・唐門・飛雲閣の拝観。拝観にあたり当院輪番の松本輪番が、各所にて説明を行った。松本輪番は、神戸別院に着任する前、本願寺内務室にて勤務していたことから、より細かな説明をされたため参拝者からは好評であった。

本願寺を後にした一行は、先斗町にある江戸前の鰻と京懐石の「いずもや」にて昼食を楽しんだ。

午後2時から、南座にて、この日が、初日の『若き日の親鸞』を鑑賞した。この演劇は、五木寛之氏の人気シリーズ小説を初舞台化したもので、楽しみにしている参加者もいたようだ。

鑑賞後、バスにて神戸への帰途に着いた。



本願寺唐門前での集合写真

兵庫・岡山テレホン法話集

「私のことですから」

西宮市 善教寺
赤井智顕

毎月のお寺での法要や勉強会に、いつもお参りに来られる、一人のご門徒様がおられます。ご主人様を亡くされたのを縁に、聞法の日々が始まりました。バスと電車を乗り継いで、1時間以上かけてのお寺参りです。並大抵のご苦労ではありません。しかし、はじめは法話を聞いても、本を読んでも分からないことばかり。聞いても聞いても分からないものどかしさに、ご主人様を亡くされた悲しみの気持ちとあいまって、心が折れそうになったこともあったそうです。けれども、繰り返し繰り返しお聴聞され、仏法に触れられていくうちに、少しずつ心に変化が出てこられたそうです。

先日、月参りのご縁でご自宅に寄せていただく機会がありました。その中の会話で「いつもご遠方のところお参りいただき、ありがとうございます」と、何気なく私がお礼を申しあげますと、「いえいえ、仏法は私のことですから」との、お答えが返ってきたのです。私は、ご門徒のお領解に頭の下がる思いがしました。

ご開山・親鸞聖人が、常々仰っていたお言葉に、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」とのお言葉が伝

えられています。阿弥陀さまの本願は、煩惱に惑い、「いのち」の往き先を知らない、この私を救う為におこされた大悲の願いです。阿弥陀さまは法蔵という菩薩さまであられた時、苦悩の底にうち沈む、この私の姿をすでに見抜かれ、「この子を必ず救う親となる」と誓ってくださいました。それから想像を絶するようなご苦労の果てに、その誓いを完成され、「南無阿弥陀仏」という、まことの親の名告りをお授けくださったのです。

最後にお見送りいただいた玄閑口で仰いました。

「亡き主人のお陰で、ようやくお念仏の教えに遇うことができました。主人を亡くした悲しみは消えませんが、仏縁をいただいたことに対して、不思議と今では感謝の想いを抱いています。また来月のご法要も楽しみにしています」

本願の仰せを聞きひらき、お浄土への人生を歩ませていただく時、私の「いのち」が、途方もない大きな願いのなかに包まれていたことを知らせていただきます。「仏法は私のこと」と、改めて気づかせていただいたご縁でした。

別院ホームページにて、兵庫教区青年僧侶の会で作られた3分程度の法話が配信されています。ご視聴ください。

※過去に配信されたご法話を編集し掲載いたしました。



4月1日付で
今井実咲さん(大
分教区玖珠組浄
専寺)が入所いた
しました。



新職員紹介

いまい みさき
今井 実咲

2019(令和
元)年4月1日か
ら当院に勤務し
ていた山蔭七歩
さんが、2023
(令和5)年6月
30日を以て退職
いたしました。

職員退職のお知らせ



別院前庭の階段に手すりが設置された。東側には、スロープが設置されているが、西側は10段の階段のみで、高齢者にとっては足腰への負担が大きい。また、スロープを利用するには少し遠回りになる状態。
参拝者から「手すりがあると助かるのに」との声が聞かれたことから、早急に設置を決定し工事を行った。西方面(駐車場側)からお越しの際は、ご利用ください。

境内地整備・前庭階段に手すり設置

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要 協賛行事のお知らせ

2024(令和6)年2月10日(土) 本願寺神戸別院にて開催

釈徹宗さんとサヘル・ローズさんの対談



釈徹宗(僧侶・相愛大学学長)

プロフィール

1961年大阪府生まれ
相愛大学学長 専門:宗教学、比較宗教思想
浄土真宗本願寺派大阪教区豊島北組如来寺住職
NPO法人「リライフ」代表

【著書】

『ブッダの伝道者たち』(角川選書)
『死では終わらない物語について書こうと思う』(文藝春秋)
『随縁つらつら対談』
『この世を仏教で生きる 今から始める他力の暮らし』
(大平光代氏と共著)
『おてらくご』(本願寺出版社) 他多数



サヘル・ローズ(俳優・タレント)

プロフィール

イラン出身。8歳で来日し、高校生から芸能活動始める。
舞台『恭しき娼婦』では主演を務め、主演映画『冷たい床』では、ミラノ国際映画祭で最優秀主演女優賞を受賞するなど、映画や舞台・俳優としても活動の幅を広げている。また、第9回若者力大賞を受賞。
国際人権団体NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動では親善大使を務めた。
個人的にも支援活動を続け、2020年にはアメリカで人権活動家賞も受賞。
13年ぶりの新著「言葉の花束～困難を乗り越えるための自分育て～」も好評発売中。